



ホイールモータキット

Reelmaster® 5410, 5510, 5610 および Groundsmaster® 4300-D ト
ラクションユニット用

モデル番号133-2950

取り付け要領

▲ 警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告
米国カリフォルニア州では、この製品に、ガンや先天性異常などの原因とな
る化学物質が含まれているとされております。

重要 この取り付け要領書では、新しいホイールモータとその関連機器、および油圧フィルタの取り付けと取り外しについて説明します。当初に取り付けられていた走行回路関係機器に何らかの破損が発生している場合には、必ず、それに関わる修理作業および、油圧回路内部の高圧洗浄を行ってから、本ホイールモータの取り付けをするようにしてください。くわしくは代理店におたずねください。

▲ 警告

高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受ける必要がある。このような怪我を放置すると壊疽を起こす危険がある。

油圧システムの整備作業などを行う時は、必ずシステム内部の圧力を完全に解放すること。エンジンを停止し、すべてのカッティングユニットを降下またはブロックで支える。

油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出していますから、手などを近づけない。リークの点検には新聞紙やボール紙を使い、絶対に手を直接差し入れたりしない。

▲ 注意

この保持を怠ると、機体が動いたり落下する危険があり、重大な人身事故になるおそれがある。

アタッチメントやタイヤを交換する場合など機体を浮かせる必要があるときには、適切なブロック、ホイスト、ジャッキなどを使用すること。まず機体を、コンクリートなどのしっかりした床の上に駐車する。ジャッキアップ前に、吊上げの邪魔になったり整備作業に不要なアタッチメントなどは全て外す。機体の整備などを始める前に、必ず、機体が不意に動き出すなどの危険がないことを確認する。必要に応じ、ジャッキスタンドなど適切な支持具を利用して負荷を確実に支える。



古い機器の取り外し

1. 平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止する。キーは抜き取っておく。
2. 以下の要領で車体から前輪を取り外す
 - A. 機体が不意に動き出す可能性がないことを確認。
 - B. 前輪のラグナットをゆるめる。
 - C. 機体をジャッキアップして車輪を浮かす。機体をジャッキスタンドで支える。ジャッキアップ要領については、オペレーターズマニュアルを参照のこと。
 - D. 駐車ブレーキを解除する。
 - E. ラグナットを外し、車輪とブレーキドラムを車体から外す。
3. ホイールハブをホイールモータに固定しているロックナットをゆるめる外さないこと [図 1](#)。ロックナットは少なくとも2回転はゆるめること。

注 これにより、テーパがゆるくなってもハブが飛ぶ心配がなくなる。

重要 ホイールハブを取り外すときに、ハブやプラーやホイールモータをハンマーでたたか

ないでください。ホイールモータを破損させる恐れがあります。

4. 所定のプラーTOR6004を使用して、ホイールモータからホイールハブをゆるめる。
 5. モータのシャフトからロックナットとホイールハブを外す [図 1](#)。
 6. ブレーキアセンブリをブレーキアダプタに固定しているねじ4本を外してブレーキアセンブリを取り外す [図 1](#)。
- 注** ブレーキアセンブリからブレーキケーブルを外す必要はありません。
7. ホイールモータの油圧ラインやフィッティングの端部から異物が侵入しないように十分にきれいにする。
 8. 組み立て時に間違えないように、ホイールモータの接続部にラベルなどを貼る。
 9. ホイールモータのフィッティングから油圧ラインの接続を外す。ラインからこぼれ落ちるオイルは適切な容器に回収する。
 10. 外したフィッティングやホースにはキャップをはめて、フィッティングやホースの内部に異物が侵入するのを防止する。
 11. 各ホイールモータは落下しないように適切に支持する。

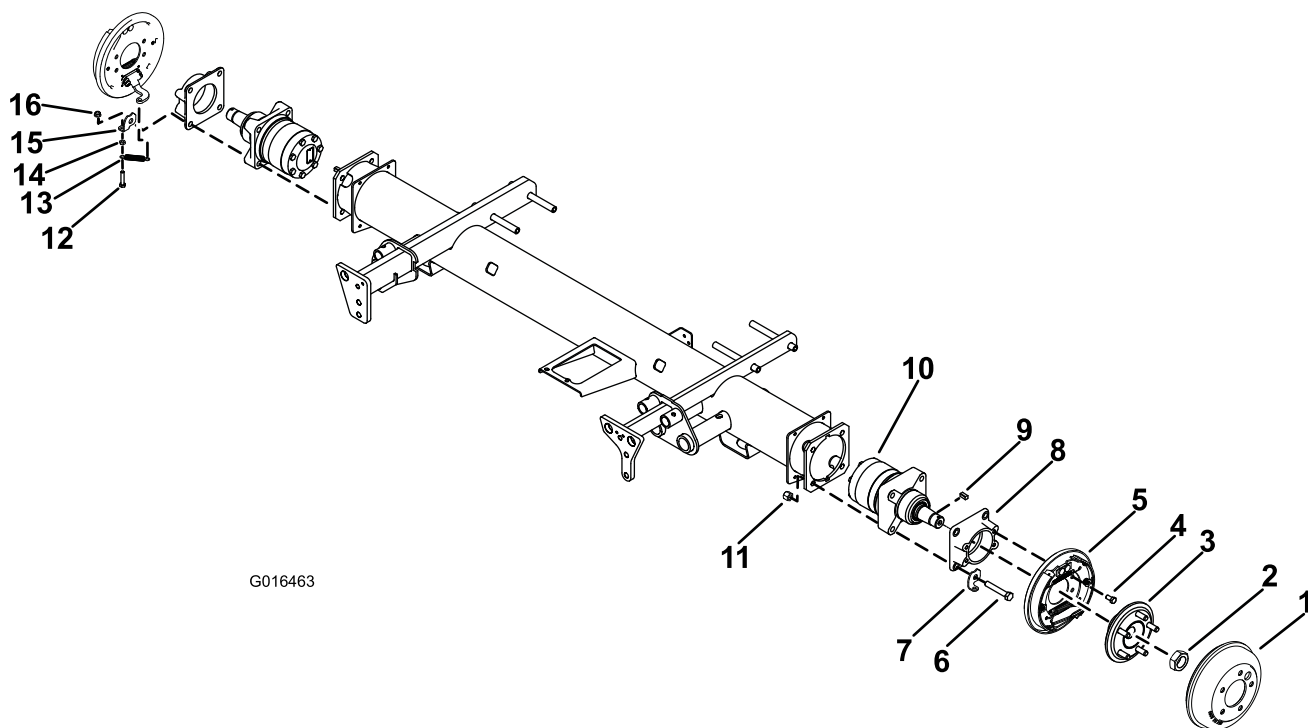


図 1

- | | | | |
|--------------------|--------------------------------|------------------------|---------------------------------|
| 1. ブレーキドラム | 5. ブレーキアセンブリ左 | 9. 角キー | 13. エクステンションスプリング |
| 2. 六角ナット | 6. ねじ1/2 x 3 インチ | 10. ホイールモータ左 | 14. ジャムナット5/16 インチ |
| 3. ハブアセンブリ | 7. ブレーキスプリングブラケットまたはスプリングクリップ左 | 11. ロックナット1/2 インチ | 15. ブレーキスプリングブラケットまたはスプリングクリップ右 |
| 4. ねじ3/8 x 3/4 インチ | 8. ブレーキアダプタ | 12. ねじ5/16 x 1-1/2 インチ | 16. フランジナット5/16インチ |

12. ブレーキアダプタ、ホイールモータ、スプリングクリップをフレームに固定しているロックナット4個を外す [図 1](#)。
13. ブレーキアダプタ、ホイールモータ、ブレーキスプリングブラケットを機体から取り外す。
14. 新しいホイールモータアセンブリを取り付ける時に分かりやすいようにフィッティングの位置を覚えておく。モータについているフィッティングを外してOリングを廃棄する。

新しい機器を取り付ける

1. 新しいOリングにオイルを塗り、先ほどホイールモータから取り外したフィッティングに取り付ける。
2. フィッティングをホイールモータのポートに取り付ける先ほど覚えた向きに取り付けること。

注 左ホイールモータには、[図 2](#)のように、シャフトに黄色の丸印またはリング状の彫り込みがなされているので識別できる。

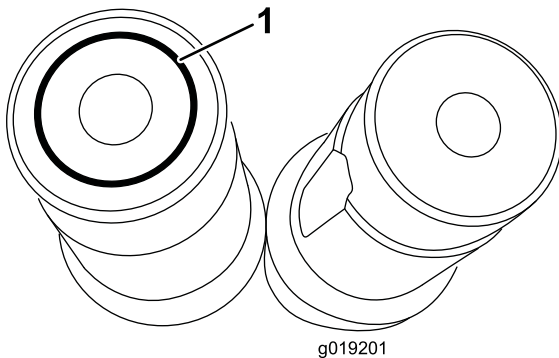


図 2

1. シャフトに掘り込まれたリングマーク

3. ホイールモータをフレームに対して適切な向きに調整する。スプリングクリップ、ブレーキアダプタ、ホイールモータをフレームに取り付けるキャップスクリュー1/2 x 3 インチ4本を使用する。
4. キャップスクリューにロックナット1/2 インチ4個を取り付けて締め付け、モータ、ブレーキアダプタ、スプリングクリップをフレームに固定する。

注 ねじを 91113Nm9.411.5kg.m = 6783ft-lbにトルク締めする。スプリングクリップが[図 1](#)のように取り付けられていることを確認する。

5. ブレーキアダプタにブレーキアセンブリを取り付ける キャップスクリュー3/8 x 3/4 インチ4本を使用する。

注 キャップスクリューを 3745N m 3.74.6kg.m = 2733ft-lbにトルク締めする。

6. ホイールモータのシャフトとホイールのハブのテーパ部分を十分にきれいにする。

重要 ハブやホイールモータのシャフトにアンチシーズやグリスなどを塗らないこと。

7. ホイールモータのシャフトのキー溝に角キーを入れる。新しい角キーとホイールハブとを整列させ、ホイールハブをモータのシャフトにセットする。ハブをロックナットで固定する。ロックナットを 549671Nm 5668kg.m = 405495ft-lbにトルク締めする。

重要 通常のトルクレンチにトルク増力器をつけて締め付けることはお奨めできませんが、最大締め付けトルク 678N m500ft-lbを達成できるレンチがない場合にはそのような方法も可能です。

8. 作業に先立って外したフィッティングやホースについているキャップを外す。
9. ブレーキケーブルのクレビスを取り外した場合には、元通りブレーキアクチュエータレバーに、コッターピンで固定する。
10. ブレーキドラム、前ホイール、エキスパンションスプリングを、機体に取り付ける。

注 ラグナットを 95122N m9.712.5kg.m = 7090ft-lbにトルク締めする。

11. 反対側のホイールモータにも同じ作業を行う。

油圧フィルタの交換

以下の要領で、油圧フィルタを交換する

1. チャージ/ステアリング回路用フィルタToro P/N 86-3010の取り付け部周辺をきれいに拭いて、フィルタの下にオイル受け用の容器を置く。
2. フィルタを外す。
3. 新しいフィルタのガスケットに油圧オイルを薄く塗る。
4. 取り付け部が汚れていないのを確認する。
5. ガスケットが取り付け部に当るまでフィルタを手でねじ込み、そこからさらに1/2回転締め付ける。
6. 油圧オイルタンクのフィルタToro P/N 94-2621にも同じ作業を行う。
7. エンジンを開始して2分間運転し、システム内のエアをパージする。
8. エンジンを停止させ、オイル漏れがないか点検する。

油圧オイルタンクのリビルド

1. 油圧オイルタンクに各部品を取り付ける。
2. すべての油圧ラインが正常に取り付けられ、確実に締め付けられていることを確認する。
3. 油圧オイルタンクに新しい油圧オイルを入れる。



Count on it.